

僕もハクセイにしてもらっちゃいました!!



渾身の1匹はカタチに残す!!

リアル過ぎる剥製登場!!



ビルのトロフィとして生まれ変わります!



魚にもう1度命を吹き込んだような剥製を製作する谷さん。剥製作りの魅力や自身の想いを熱く語ってくれた!!

取材協力: 魚類剥製 アフターフィッシングギア 飛魚丸 〒485-0034 愛知県 小牧市 市之久田 1-327-1
TEL: 0568-41-0552 URL www.tobiuomaru.net/

今回ご紹介するのは釣り人の思い出をカタチに変えてくれるお店!! 初めて釣り上げたカジキ、マグロ、シーバス、鯛、ブラックバス等、どんな魚であろうと、実際に釣り上げるまでの試行錯誤の中での苦労や挫折は釣り好きであればあるほど多い。そしてそういった困難を乗り越えた後であればあるほど、その魚に対する思い入れというのは強いのではないだろうか? 皆さんは釣り上げた後の魚をどうしているだろうか? 多くの方がリリースや食べるという意見ではないだろうか。もしくは記念に写真や動画で大切にその瞬間を保管されている方も多いと思う。しかし今回の取材では、写真や動画以上に、釣った時のあの感動的な感覚を蘇らせてくれる人達がいるということを知ることが出来た。そんな圧巻の技術を見せてくれたのが、愛知県小牧市にある『魚類剥製 アフターフィッシングギア 飛魚丸』さんである。そんな飛魚丸さんの剥製作りを一手に担う職人の谷さんに剥製作りの魅力についてたっぷり語って

頂いた。そもそも谷さんが剥製作りの世界に飛び込むきっかけとなったのが20年前。行きつけの喫茶店に飾られた剥製を見て、剥製作りに興味を持ち、自分も剥製を作りたいと思うようになった。その後、書籍を読んだり、スクールに通いながら技術を磨き、その中で沢山の職人さんから技術を学ぶことで、自分のスタイルを確立させていった。また、谷さんは大の釣り好きでもあり、夏場にはカジキ釣りにも積極的に出かけているとのこと!! やはり自分で釣りに行って、釣りたての魚を見ている分、リアルな『魚の色』を知っている谷さんだからこそ表現出来るリアリティーがあるようにも感じる。また、谷さんは98年の開業後以降は、各地のフィッシングショーへ出展し腕前を披露していたのだが、その技術力は日本国内に収まらず、釣り具メーカーの支援もあって、世界大会にも参加し、バスと鮎の部門で世界3位になったこともあるのである!! そんな谷さんには日頃から様々な魚を釣り上



今回は黒鯛の作業工程を途中まで見せて頂きました。



まず黒鯛を砂の上に置き動きがあるような型を作ります。



型が決まったら、その上から石膏を流していきます。



流し終わったら布を被せ固まるのを待ちます。



固まった石膏を慎重に外し、ハサミで切り取ります。



型取り後は身を綺麗に細かく取り除いていきます。ここが大切との事。



本来なら発泡材で出来た型を皮の中に入れてますが、保管の為ラッピングします。



一旦順番待ちの為、冷凍保管します。



取材当日は谷さん主催の勉強会中!!



発砲材が固まるのを待ちます。



高い技術力で正確に型取られます。



今回は勉強会メンバーも参加しました。



皮の中に入るベースが完成しました。



迫力満点なGTの姿が蘇ります!!



リアルなブラックバスの姿も!!



口の中といった細部も正確に表現!!

げた方々からの剥製の作成依頼が集まってくるのである。鋭く尖ったカジキのビルがズラリと並んでいるのを目にした時の迫力はまさに衝撃であった。自らもカジキ釣りを楽しむ谷さんへのビルの剥製の作成依頼は後を絶たないという。また、谷さんの元には初心者だけでなく、同業者も技術を磨くため集まって来る。そんな人にも惜しみなく自分の技術を伝授してしまう谷さんには多くの弟子が集まって来る。人柄を見ればこの仕事をビジネスとしてではなく、心底楽しんでいるようにも見える。苦労して釣り上げた渾身の1匹、それを剥製にするのも悪くない。